

# パンタナール通信

南北米福地開発協会

会報

2007年1月1日

40号

## 迎春

レダ基地から見るパンタナールの朝陽



謹んで新年のお喜びを申し上げます。

人口爆発の世紀と言われた20世紀の勢いが、二十一世紀の今も続いています。地球環境問題と共に食糧や限られた資源

源が問われます。問題の大半が陸地の上で作られています。

地球の三分の二を占める海をどう生かすかは、問題解決の鍵を握っています。今、私はその一環として独立した事業体のポータ市場を建設し、ポータ販売と共に、海洋教育と訓練を進めています。レダ基地が南米と北米が力を合わせて地球平和と村建設に回帰して邁進していく基盤造りになると確信しています。米開発と共に、今年も一層力を合わせて貢献して行く決意です。皆様の健康を衷心より祈念申し上げます。

二〇〇七年元旦 南北米福地開発協会

会長 神山威



明けましておめでとうございませう。

支援していただいた会員の皆様へ、現地へ直接汗を流された方々のお陰で、今や美しいレダ基地の景観は、苦闘を乗り越えた開拓七の成果を物語っています。しかし、米開発もいよいよ本格的換金事業を起ころうと継続維持発展をさせていく第二次七年路程として、基盤造りの時がやって来ました。第一に既に環境対策として、地球に優しいバイオエタノール生産に注目を、昨年は「トウモロコシ」「サトウキビ」の栽培が試みられ、収穫の可能性は充分確認されましたが、更に搾油効率が高い「ブラジリアン産のシヤトローヤ（南洋油桐）」の種の入手により、その栽培と情報収集に集中して取り組んでいます。シヤトローヤ栽培は、実益を伴う本格的植林活動の一環を担うことにもなります。向こう三年の内、百ha(二十万坪)植林を目指します。それに伴う植林地造成、搾油工場や倉庫の建設、輸送手段の確保など、初期投資が必要になりますが、五百ha(十ha)拡大すれば、三十年以上にわたって年間百万\$を超える収益が期待されます。一方、近隣の村々の教育支援活動は、国際協力青年ボランティア隊派遣活動と共に継続してまいります。地球環境問題に対応する一助としての植樹活動も、新機軸で展開していく計画です。今年には「トウモロコシ」も既に「バイオエタノール」に決定しています。新しい転換期を向かい、尚一層皆様の理解と協力をお願い申し上げますと共に、本年の「多幸を心から祈念致します。」

二〇〇七年元旦 事務総長 飯野貞夫

# エコツーリズムの宝庫、レダへ！！



今年環境に優しい燃料バイオディーゼルの生産とともに生態系の宝庫、世界最大の湿地帯パンタナールの自然の素晴らしさに触れ、大量消費社会の中で枯渇した先進国の人々の心に豊かさを取り戻すエコツアーを計画しています。人の手によって侵食されていない自然が残され、今も新たに新種が発見されるという多種多様の動植物が生息するパンタナール大湿地帯へ多くの人が訪れ、心の故郷を実感してください。環境保護、自然保護の原点は自然の美しさと妙味に対する



尊敬と愛情が原点となって成されるものだと思います。

パンタナールの自然は到着したその瞬間から私達の心を包み、知らず知らず愛着を残していく神秘的な場所です。

美しい朝陽、夕陽、夜空の星、美しい湿地帯の風景、そして希少生物との出会いは驚きと感動を与えてくれます。

また、在るがままの自然の環境の中での乗馬、釣り等も湧き上がる活力を感じ、心と体の健康には最適です。

そして、近隣のインディヒナの村を訪ね、現地の文化を知る機会も持ち、それらの文化を理解し、お互いを尊重する相互の交流の場も準備しています。

特にレダの近郊は珍しい鳥が多くバードウォチングに関心のある方には天国です。



2005 09

# 環境に優しい石油代替エネルギー開発を目指すレダの未来

過去、七年間、日本と世界に  
いる支援者の援助を受け、人が  
住むことさえ難しい地域の改善  
をなし、十分、生活が成り立つ  
所まで変化を遂げてきました。  
稲を初め、野菜や、マンゴ等の  
果物の栽培も出来ております。  
椰子の木以外は見当たらない場  
所にも各種の木を植樹し、美し  
い景観が創造され、多くの鳥や  
動物達の憩いの場になっており  
ます。エコツーリズムの環境に  
は最適の場を作り出し、今後は  
多くの人を惹きつけ、環境保全  
に対する人間の責任の重要性を  
伝える貴重な生きた研修が出来  
ると期待しています。

七年の間、経験を積みながら、  
今日まで環境を破壊せずに、む  
しろ環境を豊かにしながら、人々  
の生活水準を高めることの出来  
る産業を探してきました。  
レダの地は土地に塩分を含み、  
土壌は痩せた粘土質で長い乾季  
のある難しい土地であるので困  
難を極めました。ジャトロファ  
を育てバイオディーゼル生産を  
することに、可能であるこ  
とが分かりました。

## インドでの

### バイオによる村おこし

『インドのアンドラ・プラデシユ  
州チャバルディ村では、女性達  
がクロヨナの種子から生産した  
燃料を用い灌漑ポンプを動かして  
いる。各世帯は電気代として  
毎週七kgの種子を婦人会に治  
める。二〇〇三年には種子の活  
用範囲を広げ、ドイツとの排出  
削減クレジット取引（二酸化炭  
素換算で九〇〇トン）で村の歳  
入総額に相当する四一六四ドル  
を得た。低迷する農村地帯に収  
入をもたらすだけでなく、外国  
の石油への依存度を低減する効  
果もあることから、政府関係者  
は今回の事業拡大投資が、向こ  
う五十七年で二十億ドルの経費  
削減と千七百万人の雇用をもた  
らすものと期待している。また、  
バイオディーゼルの加工コスト  
がヨーロッパやアメリカの三分  
の一程度なので、これらの地域  
に対してインドが原料のみなら  
ずバイオディーゼル製品の主要  
供給国になることを期待してい  
る。』(ドイツGTZ2005  
年から)

## 厳しい環境のレダでのバイ オ燃料の成功は途上国への 未来を拓く

『既に人口千一百万の十二%  
(農村部では一%)しか電気を  
利用できていないマリでもジャ  
トロファの木を植え始め、そこ  
から採れる油で発電機や自動車  
の燃料を生産し始めています。  
ジャトロファは実を四十年近く  
実らせ、乾燥地帯の劣悪な土壤  
でも育ち、食用作物と競合しな  
いが、窒素固定作用で土壌に肥  
料成分をもたらしてくれます。

石鹼材料や調理燃料として用  
い、油糧種子の加工システムは  
低コストで、稼動と維持に高度  
な訓練を必要としないなど途上  
国にとり、換金性のある産業と  
して可能性を持ったものです。  
貧しく、生きるだけに全ての糧  
を使ってしまい、教育や医療を  
改善する余裕の無かった途上国  
が先進国からの援助に頼るので  
なく自立する道を拓くことの出  
来るプロジェクトになることで  
しょう。レダでの成功を世界に  
広げ世界の平準化に貢献できる  
よ。現地で懸命に歩んでいます。』



ジャトロファの植え付けを炎天下でする日本の農業指導員と現地労働者

## 夕からの報告 十二月十三日

十一日に四人の医者がオリンポからポートでやってきました。バ  
イアネグラまでの各村を訪問して、  
医療調査をされるとのことでした。

にわか雨にあい急遽レダに立ち  
寄るといふ突然の訪問でしたが、  
夕食を差し上げ、ゲストハウスに  
泊まって頂きました。十二日の朝  
は晴れていました。ガソリンも二  
十リッター提供し、喜んで元気に  
バイアネグラ方面に出発され、お  
見送りしました。昼過ぎ、双発の  
飛行機が隣の牧場に降りました。

隣のオーナーかと思っていいたら、  
夕方二人の人がレダにきました。  
聞いてみるとドクター達をアスン  
シオンにお連れする為、迎えに来  
たと言います。「へえー、そんな  
こともあるのか」と驚きましたが、  
後でわかったことには、一行の中  
に一人女医の方がいて、その方が  
パラグアイの保健省の副大臣で、  
医師会の会長もされている偉い方  
なのだそうです。

巡廻を終えた一行がアルミの  
ポートで戻って来ました。再会を  
喜び、車で隣の牧場に待っている  
飛行機の所まで送ってあげること  
にしました。

上山先生と私で二台の車で出発  
しましたが、昨日の雨で、隣の牧  
場へ行くゲートのところが、深い  
水溜りとなって行く事が出来ませ  
ん。同行した警察署長はじめ彼ら  
は何とか行きたいから、「大丈夫、  
大丈夫」と車から降りて前に立つ  
て手招きします。上山先生の車だ  
け試みに走ってもらいましたが、  
案の定、立ち往生して動けなくな  
りました。警官も男の医師も泥ん  
この中に入って車を押しますが、  
スリップして言う事を聞きません。

あきらめてもらい、女医さんも途  
中のアランブレイをくぐって隣の  
道路を歩いて飛行機の所まで行っ  
て貰うことになり、別れを惜しみ  
ながら荷物を持って一行は遠去  
かって行きました。ところが陽も  
沈んだ午後七時半、再び隣のトラ  
クターに乗せられて、戻って来ま  
した。滑走路がぬかかって飛行機  
が飛び立つ前に動けなくなってい  
ました。お気の毒に、疲れ果てて  
戻って来ました。

早速再度ゲストハウスに車でこ  
案内し、シャワーを浴びてもらい、  
夜八時過ぎて暗くなっている為、  
食堂まで車でご案内して、夕食を  
取って頂きました。

日本人の皆とも交流すること  
が出来、スペイン語の十六分ビ  
デオ「日陽園の歩み」も自然に  
紹介でき、感動されていました。

よくよく聞けば、病院船を造っ  
て定期的に一ヶ月かかりでパラ  
グアイ川に沿って無医村の村々  
を回っていくという構想で、今  
回の調査巡回となったそうです。  
「セミナーハウスも使えるか」  
という質問があり、「ドクター  
の研修も、看護婦の研修も可  
能である」と応えると、近隣の  
「牧場主」達を集めて医療研修  
することを考えているという。  
九時半ぐらいまで交流がされま  
した。  
今日十三日、朝六時前後から、  
ついに又雨が一時ほど降って  
しまった。ポートで行くことも  
検討されたが、もっと大きな雨  
雲が近づいている為、色々検討  
されました。我々の滑走路に飛行  
機を呼んで、出発することになり、  
心配の危惧をよそに、無事に飛び  
立っていききました。見送った人々  
の間に、離陸してグリーンと飛び立つ  
た瞬間、思わず歓声と拍手が沸き  
起こりました。

飯野貞夫

## 報告 十二月十六日

炎天下ジャトロファ植え付け作業が続いていま  
す。ラタイ牧場方面道路の排水溝造りもセメン  
ト打ちが終わりました。この写真を撮った後、  
車に戻ろうとしたらもう少しで道路に横たわっ  
ていた二羽のオナコダを踏みそうになり  
ました。あわてて気がついて足を引っ込めまし  
たが、彼も驚いて逃げて行きました。

一方白鷺が鶴か、何種類か混ざって、百羽以上  
の群れが、数日、基地前の支流に住み着いてい  
ます。昼は支流の奥地へ行って夕方、帰ってきま  
す。伊達先生が軽い  
熱中病にかかって、大  
事をとって今日は少し  
休んでもらっています。

日陰で四十度ですか  
ら、直射日光の下では  
過酷です。でも、皆黙々  
と汗を流して頑張って  
います。

飯野貞夫



南北米福地開発協会 事務局

〒二二二一〇〇〇一

神奈川県川崎市高津区

溝口三十一番十五

岩崎ビル四F

電話 〇四四一八二九一二八二

Fax 八二九一二八二〇〇

会費納入 郵便口座

一〇一八〇一七七六八〇四七一

代表 柴沼邦彦